

当別町赤十字奉仕団

すべての人々の幸せを願い
陰の力となって人々に奉仕する。



皇居庭園にて（昨年4月）前列中央が委員長の下段イチ子さん

本 町のボランティア団体の先駆けは、昭和39年10月に発足した「当別町赤十字奉仕団」。今回は委員長の下段イチ子さんと役員の方にその活動について伺いました。

皆さん ご存知のとおり赤十字は世界的組織で、その理想や信条はとても崇高なものです。しかし私たちの活動は、公園や墓地の環境整備、町内のイベントでのお手伝いや奉仕活動など、目立たない小さなものです。地域や人との繋がりが薄れつつある今だから「助け合いの精神」を大切に考え、地域に密着した活動を心がけています。阿蘇公園にある「あやめ園」は、公園を訪れる方々の憩いの場として昭和54年に奉仕団が整備しました。

毎年、7月中旬が見頃で20種類以上のあやめが咲き誇ります。来年は土を入れ替え、さらに美しくなるよう整備していきます。

皇居の清掃には全国各地から日赤奉仕団をはじめ各種団体が集まってきました。この写真は、昨年4月に行って来た時の様子です。一般には開放されていない皇居の奥まで、4日間清掃活動を行い、天皇皇后両陛下、そして皇太子様からの御会釈とお言葉を賜り、大変感激しました。私たち21名の行動が素早かったのも、どこへ行っても当別が一番先に紹介され、大変嬉しく思いました。

発足当初、98名でスタートした団員は昭和54

年には444名まで膨れましたが、その後ボランティア団体も増え、今では181名となっています。多くの方に参加してもらいたいのですが、若い人たちは家事や育児で忙しいでしょう。実際に活動に参加してくださるのは50歳代以上で、時間に余裕が出来た方。奉仕活動に理解のある方であれば男性でも入会できます。トレードマークでもある割烹着の衣装は、若い人たちには、日赤奉仕団は古いと思われがちですが、これは作業を行うユニフォーム。皇居の清掃活動では「ワンダフル！」と外国人に声をかけられました。今後、若い人に参加してもらうには、サロンエプロンなど、今風のファッションも考える必要があるのでしょうかね。 【9月7日取材】